

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 18-1

問1)

シール百貨店は、ケンブリッジ本店とオックスフォード支店の二店で営業を行っている。
 沢山の商品を扱っており、本店と支店がそれぞれ仕入れたものを販売しているが、中には本店が仕入れたものを支店へ送付する商品もある。本店が支店へ送付する商品は原価で振り替えている。



そこで、次の①から③の資料にもとづいて、当期の本支店合併財務諸表を作成しなさい。なお、会計期間は1年、決算日は2月末日である。

① 決算整理前残高試算表

借方科目	本店	支店	貸方科目	本店	支店
現金預金	3,154,480	2,295,000	買掛金	2,731,790	各自推定
売掛金	2,024,000	2,376,000	貸倒引当金	30,000	32,000
繰越商品	各自推定	1,184,000	減価償却累計額	403,600	192,000
土地	400,000	-	本店	-	各自推定
建物	1,999,920	959,400	資本金	500,000	-
支店	各自推定	-	繰越利益剰余金	6,388,000	-
仕入	14,240,000	8,648,000	売上	19,416,000	12,480,000
営業費	2,689,390	2,256,000			
合計	29,469,390	17,718,400	合計	29,469,390	17,718,400

② 当月における本支店間取引等

当期の1月末の本店における支店勘定の残高は2,619,200千円であった。また、2月中の本支店間の取引は以下のとおりであり、適正に処理されている。

- (1) 本店は、支店に商品552,000千円発送した。
- (2) 支店は、本店の売掛金184,000千円を回収した。
- (3) 本店は、支店の買掛金345,600千円を支払った。
- (4) 支店は、本店へ453,600千円送金した。
- (5) 本店は、支店の営業費196,800千円を立て替え払した。

③ 決算整理事項

- (A) 期末商品棚卸高は、本店が880,000千円、支店が1,272,000千円である。
また、本店の期末商品に商品評価損が350千円生じた。商品評価損は売上原価に算入する。
- (B) 売上債権の期末残高に対し、本支店ともに1.5%の貸倒れを見積る（差額補充法）。
- (C) 建物減価償却費は、本支店ともに定額法、耐用年数39年、残存価額ゼロで計算する。
- (D) 営業費の前払いが本店に16,000千円、支店に8,000千円ある。

解1)

株式会社シリアル百貨店

合併貸借対照表
1904年2月29日

(単位：千円)



資産	金額	負債・純資産	金額
現金預金		買掛金	
売掛金		貸倒引当金	
商品		減価償却累計額	
前払費用		資本金	
土地		繰越利益剰余金	
建物			
合計		合計	

株式会社シリアル百貨店

合併損益計算書
自1903年3月1日 至1904年2月29日

(単位：千円)

費用	金額	収益	金額
売上原価		売上高	
貸倒引当金繰入			
減価償却費			
営業費			
当期純利益			
合計		合計	



本店



支店

I 本支店間の商品フロー

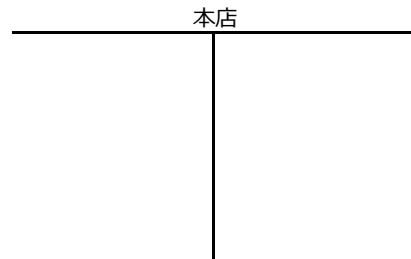
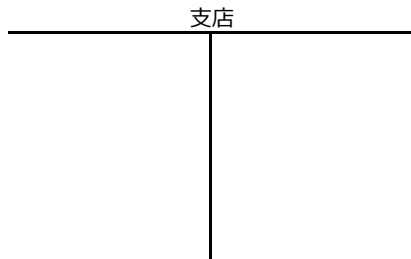


II 商品ボックス

		商品	
期首		売上	
当期仕入			期末

		商品	
期首		売上	
当期仕入			期末

III 照合勘定



- 仕訳 (1)
- 仕訳 (2)
- 仕訳 (3)
- 仕訳 (4)
- 仕訳 (5)

IV 決算整理

- 仕訳 (A)

- 仕訳 (B)

- 仕訳 (C)

- 仕訳 (D)